

## 第 2回 医療連携推進事業検討会

旭川市市民活動交流センターCoCoDe  
19:00～20:45 会議・研修室

参加者： 北海道介護福祉士会道北支部  
北海道医療ソーシャルワーカー協会北支部  
旭川地域小規模多機能型居宅介護連絡会  
旭川市居宅介護支援事業所等連絡協議会  
旭川市老人福祉施設協議会  
旭川地区訪問リハビリテーション連絡会  
旭川市地域包括支援センター  
旭川市社会福祉協議会  
旭川市居宅介護支援事業所等連絡協議会  
旭川市居宅介護支援事業所等連絡協議会  
旭川市老人保健施設協議会  
旭川市訪問看護ステーション連絡協議会  
北海道作業療法士会道北支部  
旭川薬剤師会  
旭川言語聴覚士会  
旭川市居宅介護支援事業所等連絡協議会  
旭川市居宅介護支援事業所等連絡協議会  
旭川歯科医師会  
北海道認知症グループホーム協会道北ブロック  
北海道社会福祉士会道北地区支部  
旭川市福祉保険部介護高齢課地域支援係  
上川総合振興局保健環境部保健行政室  
上川総合振興局保健環境部保健行政室  
事務局

青山 こずえ氏  
石山 武浩氏  
板橋 雅之氏  
大石 智也氏  
大沼 彰一氏  
片桐 洋介氏  
片山 勝芳氏  
北牧 美子氏  
酒元 啓太氏  
佐々木 弦氏  
佐々木 宣明氏  
白瀬 幸絵氏  
中川 浩樹氏  
沼野 達行氏  
早川 琢氏  
林 敏氏  
福島 将恭氏  
藤田 浩孝氏  
森山 伸広氏  
山田 純一氏  
山本 東美氏  
秋山 潮子氏  
山本 祐司氏  
横山、斧木、問谷  
計 26名

開会 ～ 事務局より

挨拶 ～ 旭川市居宅介護支援事業所等連絡協議会 林会長より

本日の議題

### ①各団体からの課題について

大石氏～各団体からの課題について教えて頂きたい。温度差があり、NSやSW等に利用者さんの話しが聞ける時もあるが、シャッターを閉じることもある。ケアマネも何を話したら良いかわからない。連携ができないこともある。

片山氏～連携はテーマだった。時間が経過し、進んできた。温度は高まったと実感はあるが、差も開いた。格差をいかに縮めていくか？

白瀬氏～看護師側が発信している部分も少ないと思うが、訪問看護の活用の仕方がわからない人もいる。旭川も他に比べて質が高いとは思いますが、知りたい情報が欲しいので、細かい情報を発信して情報の活用ができれば連携が取れるかも。どのように発信できるか？

大石氏～ケアマネの中でも経験によって差もある。顔の見える関係を作っていくのも大事かと思えます。

片桐氏～どのような情報交換が必要か？回復期から在宅へ戻った時の情報がつかめていない。目の前の患者さんで手一杯で、急性期のスタッフは資源についても把握できていないことも課題。

大石氏～3年で何をやるか？活用し連携が取れるような仕組み的なものを作っていったら良いと思う。

石山氏～仕組み作りはいいと思う。それぞれが一生懸命で、安心して生活できる方法がそれぞれ交差しないで進んでいっている場合がある。医療と介護の連携は進んでいると思うが、個々人で動いている。力量があってもなくても支援できれば良いと思う。タウンミーティングなど、取り組んでいる地域がある。地区がわかればイメージも沸くと思う。把握しているか？また、ソーシャルワーカーに繋がればスムーズに連携が取れることは浸透してきていると思う。

大石氏～この事業の連携推進については、12月9日に医療情報交換会があり、各地域の医療連携推進事業についてどのように進んでいるのか確認できることになっています。

酒元氏～急性期のスタッフは制度に対しての理解は難しいということだったが、ケアマネの発信力や質問力が弱いのかもしれない。ご指摘があれば教えてほしい。

白瀬氏～病状や生活の部分で利用者さんが情報を理解できていれば安心して生活できると思う。役割分担が重要だと思う。ぜひ、ケアマネも訪問看護を活用して頂ければと思う。

石山氏～他の地域では、フォーラムや勉強会、ブレインストーミングやKJ法など現場の課題は何なのかが共有できている。兵庫は研修等を生かし、コーディネーターもいる。行政との連携が必要。各団体の研修会はたくさんある。できるだけ出席すれば、質も上がる。そうすれば仕組み作りでいい旭川方式ができると思う。

板橋氏～小規模は包括報酬なので、他の医療サービスや福祉用具など利用できないという弊害がある。また、グループハウス等の医療はどうするのか？課題がある。小規模での看取りについても課題があり、警察が介入し事情聴取を受けたこともあった。ネットワークを作る旭川方式が良いと思う。介護の例からは医療機関は数居が高い。ガイドラインを作ることも必要。会員のメールアドレスを登録し一元的に情報管理するのも良い。

大石氏～薬剤に関してもケアマネは知識が薄いことがある。薬剤師会の方もいるのでどうか？

沼野氏～薬は利用者さんによって山のように残っていることがある。また、錠剤も潰せば飲みやすいと乱暴な扱いもある。居宅療養管理指導は、外付けなので利用できるという仕組みを理解できておらず、利用できないと言っていたことがあった。仕組みがわからず、使えないのではなく、使わないこともあった。ジェネリックについても、相談してもらいたい。

大石氏～施設の方からは何かありますか？

佐々木(宣)氏～現在は老健は待機者が少ない。疑問に感じていることは利用者さんが退院する際に、別な病院に転院する場合や施設に入所する場合、ケアマネさんはどこまで関わっているか？人によっては、関わっている人もいるし、関わっていない人もいる。

ケアマネも基礎資格によって、専門分野が違いどうしても福祉系は医療に弱いという部分が見られるが、不得意な分野は不得意なままで終わってしまっていることも課題の一つである。

大石氏～これまでの問題点をまとめると、

①連携は介護保険が始まる前よりは取れているが、縦割りになっており、それぞれで連携が交わっていない。

②仕組み作りについて旭川独自の旭川方式が必要

③連携を取る為には相手を知る事が重要であり、顔の見える関係が必要。

④急性期→回復期→維持期と役割分担も必要。

⑤利用者や家族との関係作りも重要。

今後の仕組み作りで、立場によって見方は違うが、今回は各団体からの課題を出してもらったかどうかと思う。

片山氏～調整を担う者は必要だが、どうしても制度的な途切れは出てしまう。ベーシックな継続的な情報が必要になる。

石山氏～連携も施設入所や入院でそこで途切れてしまう。継続包括的に流れていくことが重要。それで目指すことと方向性が出ると思う。リハビリでも上川中部リハビリ会議というものがあつた。医師会のメンバーが入っていないのは何故か。

林氏～今年度は適任者がいないとのこと。近々、医師会の選挙がある。来年度からは協力してもらえらると思う。

早川氏～上川中部リハビリ会議は、現在も道の補助金は切れたが、細々と継続している。連携もテーマで行っている。

板橋氏～在宅でも在宅生活を支援する為の3本柱と言われている、ヘルパー、デイサービス、ショートステイがあるが、連絡協議会が現在は無い。ヘルパーは現在、アンケート調査を行い会を発足する予定にはなっているが・・・仕組み作りを行う為には現場を知る為にも実情を調査する必要がある。

大石氏～次回はそれぞれの具体的な課題等をあげてもらい、具体的な仕組み作りの為にも皆様から考えを頂きたいと思ひます。

福島氏～今日は皆さんに集まってもらつたが、発言されない方もいたので、聞ける形を作ることが必要。次回は小グループに分かれて課題を出してもらつたらどうか？

ヘルパー連絡会にも声をかけたらどうか？

大石氏～林会長から、各委員の中でメーリングリストを作成し、各委員の意見や連絡事項についても情報を共有できるようにしたらどうかと意見が出ました。

石山氏～せっかく市役所の方も来られているので、どうですか？

山本氏～市としては実態を知りたい。今日の検討会に出席させて頂いて感じたことは、皆さんは実効性のあるものを求めているという事を理解しました。3年後にこのメンバーで小さくてもこれを作つて良かったと思えるものを作れば良いと思う。実のあるものにしたいと思ひます。

大石氏～今後は研修会の予定もあり、検討会も2～3回開催する予定になっています。

閉会 ～ 事務局より メールアドレスの周知方法は検討し、ご案内する。次回の検討会は1月上旬から中旬を予定。研修会は3月に予定。

## ②結論

連携は介護保険が始まる前よりは取れるようになっている。皆一生懸命に支援しているが、情報が交わっていないため上手く連携が取れていない。各専門職の役割分担を行い、連携を円滑に行うための顔の見える関係の構築や、ネットワークの駆使、研修会を通じ独自の旭川方式の仕組み作りを行う。

今回の検討会については、議論の内容を録音できなかった為、内容の食い違いや文章のつながりが乏しい部分が多々見られるかと思ひます。次回からは録音し、議事録を作成したいと思ひます。